

精神科専門研修プログラム

診療科の特色

精神科の案内

- 信州大学医学部精神医学教室は昭和24年に開講以来70年近い歴史を有しています。初代西丸四方教授をはじめ歴代教授には、現代においても必読文献として読み継がれている著作が多く、時代を超えて生き続ける精神医学を探究してきた伝統と実績があります。従来の研究テーマは精神病理学、神経病理学、精神薬理学、精神療法学などが中心でしたが、近年は分子遺伝学や神経内分泌学などの最先端の領域にも広がり、今後の精神医学の発展に貢献できるような高い水準の研究が進められています。
- 信州大学医学部附属病院の精神科病棟は、かつて40床の開放型精神科病棟として稼働していましたが、令和3年の病棟移転を機に32床の閉鎖病棟としての運用に変わりました。重症例は保護室や個室を使用して対応し、長野県内全域から紹介される合併症事例、重症例、診断困難例などの診療を行っています。薬物療法抵抗性などの難治例も積極的に受け入れており、修正型電気けいれん療法やクロザピンによる薬物療法など、大学病院ならではの高度な医療を行っています。他科と連携して診療する機会が多く、リエゾン・コンサルテーションも活発に行われています。
- 看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士などの多職種と協働してカンファレンスを行い、異なる立場や視点から個々の症例に最適と思われる治療を検討しています。チーム医療を通じて、心理検査や心理療法、作業療法、ケースワークなどの基礎を学ぶことができます。
- 科内の勉強会も充実しており、特に毎週行われる教室研究会は県内の医療関係者に広く開放され、希望者が自由に聴講できる体制をとっています。学会発表や論文作成の希望にもきめ細やかに応じられる指導体制を整えています。



当教室の特色

- わが国で最初に開設された児童精神科である子どものこころ診療部を有しています。精神科と合同でカンファレンスを行いながら専門的な診療を行っており、児童思春期の症例も豊富に経験することができます。
- 操作的診断学のみならず、伝統的な診断概念や治療論なども含めた幅広い知見をもつ専門家を養成しています。
- 病棟業務は、病棟医長、病棟グループの指導医、各曜日担当の病室医など、複数の上級医による指導体制となっています。

専門研修の魅力

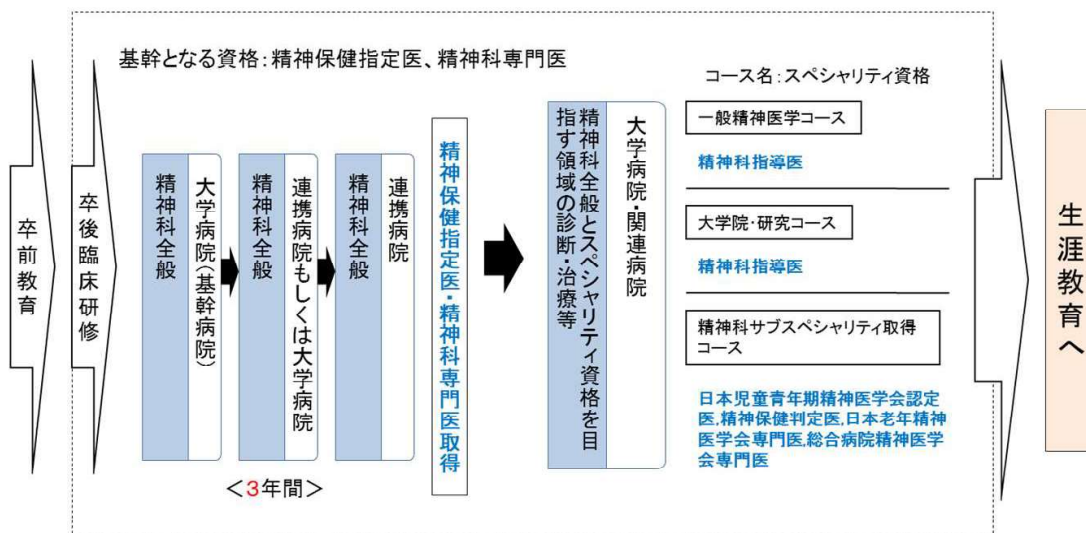
初期臨床研修後(卒後三年目以降)の専門研修カリキュラム

- 基本的には、日本専門医機構認定の精神科専門医を取得するため、3年間の専門医研修プログラムに入ってください。本プログラムでは県内すべてのエリアの病院とも連携しており、地域における総合病院の役割、長野県内の精神医療におけるそれぞれの単科精神科病院の役割などを実感しながら、精神科医としての経験を幅広く深められる研修を行うことができます。
- 本プログラムでは、1年目に信州大学医学部附属病院、2年目、3年目に連携病院での研修を受けることを基本としています（注：年次ごとの専攻医の数によっては、ローテートの順序を入れ替えたり研修を行う病院が限定されることがあります）。
- 長野県という地域特性を存分に生かしつつ、国際標準の診断、治療の技を身につけるだけでなく、さらに一人の人間の機微にふれつつ、そのこころを多面的複合的に捉えることができることを当プログラムの目標としています。
- この期間内に、当教室は連携病院と協力して、精神保健福祉法に基づく精神保健指定医の資格取得のための指導にもあたります。
- 本プログラムと並行して、社会人大学院への入学も可能です。プログラム研修外の時間を利用して、研究活動を行います。
- 個人的な諸事情(結婚、妊娠・出産、育児、他県への異動希望など)に関しては十分に配慮します。
- 専門研修終了後は、講座での臨床・研究・後進の指導、大学院進学、県内協力病院勤務などの選択肢がありますが、原則として本人の希望が尊重されます。
- 日本専門医機構認定の専門医を目指さない入局者も受け入れています。県内の協力病院と連携し、幅広い研修が行えるように配慮します。

プログラムコース（案）	1年目	2年目	3年目
基本コース （大学、関連病院）	大学	関連病院 （長野赤十字、北信総合、諏訪赤十字、飯田病院、あづみ病院、篠ノ井橋、栗田、鶴賀、千曲荘、小諸高原、倉田、村井、松南、小倉、メンタルサポートそよかぜ、駒ヶ根など）	
大学重点コース （大学院）	大学	大学	中信地区の精神科単科病院
子ども中心コース	大学（精神科）	大学（子ども）	駒ヶ根、松南など
連携大学院コース	大学	駒ヶ根	駒ヶ根

専門研修による医師キャリア形成システム

〈下図は一例です〉



サブスペシャリティー・学位取得の道筋

精神保健指定医: 初期研修2年の後、精神科専門研修3年を修了後。

日本精神神経学会認定精神科専門医: 初期研修2年の後、精神科専門研修3年を修了後。

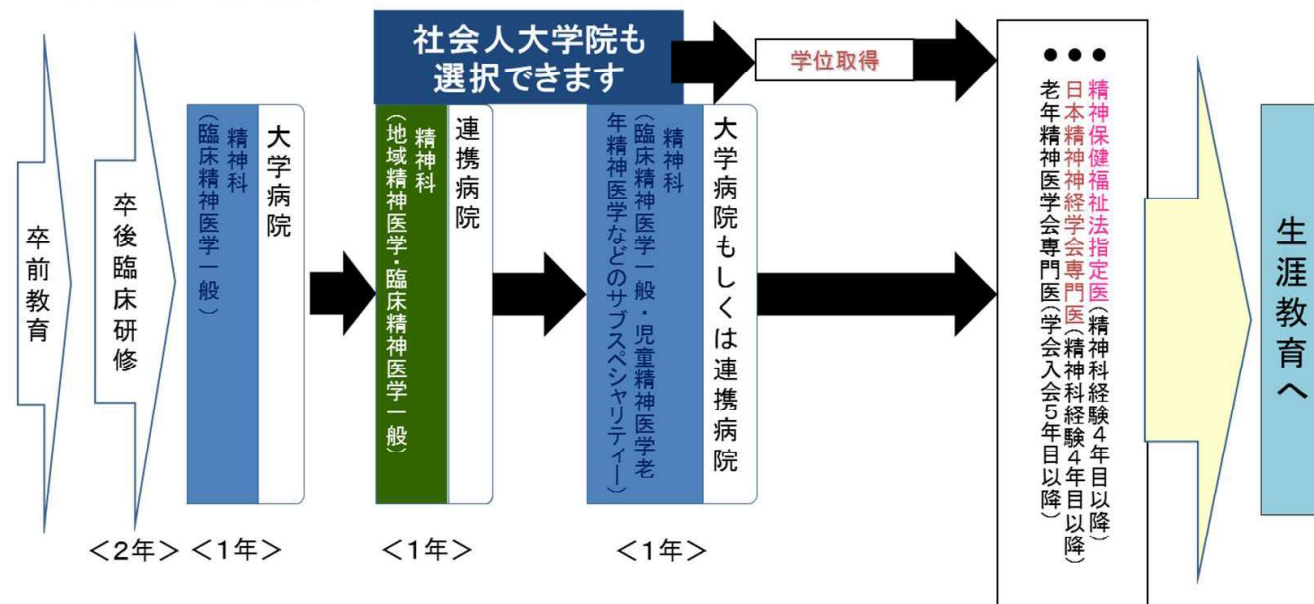
日本総合病院精神医学会専門医: 初期研修2年の後、3年以上総合病院精神医学の研修を受けた後。

日本老年精神医学会専門医: 研修医期間を含め7年以上の臨床経験を有した後。

日本児童青年期精神医学会認定医: 一般精神科2年以上および児童青年精神科3年以上を含む5年以上の臨床経験の後。

当院は、精神科専門医、総合病院精神医学会専門医、老年精神医学会専門医、日本児童青年期精神医学会認定医の研修施設に認定されています。

〈下図は一例です〉



大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

精神医学教室は、各医師の興味や問題意識のある領域でチームを組んで研究活動を行っています。

興味のある分野があれば、それを尊重し、サポートする環境です。

最近の主な研究テーマは以下です。

➤神経心理学・社会精神医学的研究

- ・気分障害患者の社会復帰に関する研究
- ・摂食障害患者の発達特性と性格傾向に関する研究
- ・救命救急センターを受診した自殺関連行動患者の動向調査

➤精神病理学研究

- ・初老期以降のカトニア症候群の精神病理学的検討
- ・体感異常症に関する症候学的研究

➤脳形態画像・脳機能画像研究

- ・電気治療の効果に関する画像研究
- ・光トポグラフィ(NIRS脳計測)装置を用いた精神疾患の脳機能画像研究

➤精神薬理学研究

- ・双極性障害の薬物療法に影響を与える因子の探索に関する研究
- ・エストロゲン受容体とうつ病の関連に関する研究

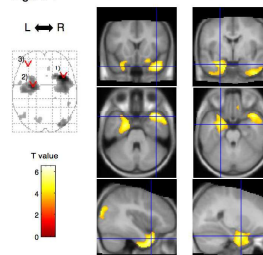
➤生物学的精神医学

- ・統合失調症とカルボニルストレス～遺伝子解析および生化学的研究～(共同研究)
- ・オミックス情報を基盤とした精神・神経疾患のバイオマーカー探索研究(共同研究)
- ・だ液を用いたうつ病のバイオマーカー研究

➤疫学的研究

- ・乳幼児健診データを用いた疫学的調査(子どものこころ診療部と連携しての研究)

Figure 1



脳画像研究



光トポグラフィ(NIRS)研究



研究成果の学会発表
(2018年) ウィーン

国内留学・海外留学

国内留学、海外留学とも希望があれば可能です。

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医を取得した後の卒後5年目以降の留学を推奨しています。
現状では生物学的精神医学の分野での留学が主となっていますが、その他の領域での留学も可能です。
また、1-2ヶ月程度の短期の留学・研修も可能です。

これまでの主な留学先:

東京都医学総合研究所
理化学研究所
国立精神・神経医療研究センター
カロリンスカ研究所
テキサスメディカルセンター ヒューストン大学



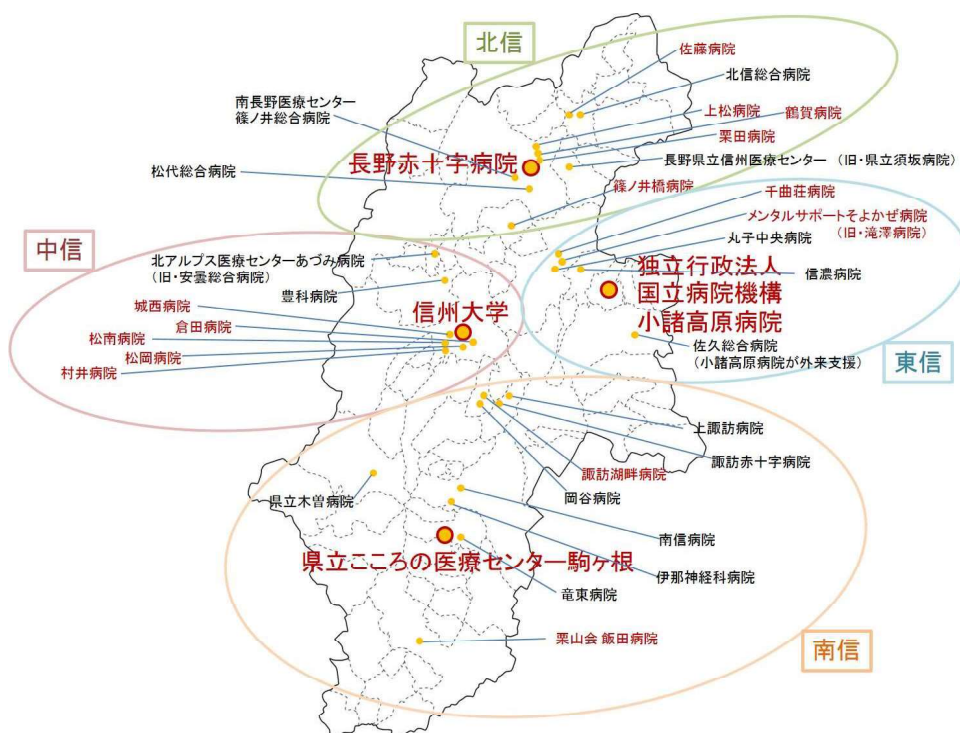
カロリンスカ研究所の研究室にて

将来の就職先など

信州大学を含めた県内の精神科医療機関の相互の連携は非常に良好・緊密であり、長野県内のさまざまな総合病院、精神科単科病院での研修が可能です。精神医学教室は伝統的に最終的には本人の意思を尊重しています。ただし、県内の精神科医療のマンパワーのバランスから当教室から勤務の継続や異動を相談することはあります。また、当教室から県外の医療機関への就職を指示したり、勧めることはありません。長野県内の精神科医は不足しており、県外の医療機関へ去られることは当教室としては非常に心が痛いところです。一方で、現実には結婚などの家庭の事情のため、あるいは県内では経験しにくい特別な分野に関心をもって県外に出ていかれる先生もいます。それらの先生とも当教室は良好な関係を保っています。開業に対する当講座からの支援は特にありませんが、開業も可能です。

県内関連・連携・協力病院

県内には、国公立、民間の総合病院や精神病院など多数の関連病院があり、相互に交流を持っています。主な病院としては、長野赤十字病院、諏訪赤十字病院、北アルプス医療センターあづみ病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院、北信総合病院、松代総合病院、長野県立木曽病院、県立こころの医療センター駒ヶ根、小諸高原病院、その他多くの民間病院があります。



連絡先

信州大学医学部 精神医学教室

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2638, 0263-37-2639 ■FAX: 0263-36-1772

■E-mail: seishin@shinshu-u.ac.jp

■URL: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-seishin/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [精神科]